

世界最大の自動車生産量を誇るトヨタ自動車のキーワード「K A I Z E N」方式を医療の世界へ。相次ぐ医療現場での事故を受け、名古屋大医学部（名古屋市）は、トヨタと連携し、同社の品質管理や人材教育のノウハウを病院での治療に取り入れ、不測の事態が起きても適切に対応できる専門医養成に乗り出す。全国の大学病院なども参加した医療安全のハブセンター（中心拠点）を目指す。（柚木まり）＝関連23面

医療現場「カイゼン」

名大に専門医養成講座

トヨタの品質管理 事故防止に応用

トヨタは徹底した品質管理を行う「カンバン」方式と、現場で常に「ナゼ」を考へ、「人を責めず」に、仕組みを責める「哲学」で、製造過程で不良品が出る原因を分析し、それをもとに工程を改善する「カイゼン」方式が有名。

名古屋大はこの「トヨタ哲学」を医療の現場に応用。医師が患者を診察し治療を行う際、手術が適切か、必要な検査はできているか現場がチェック、判断ができる態勢を目指し、ベテランの医師による医療安全

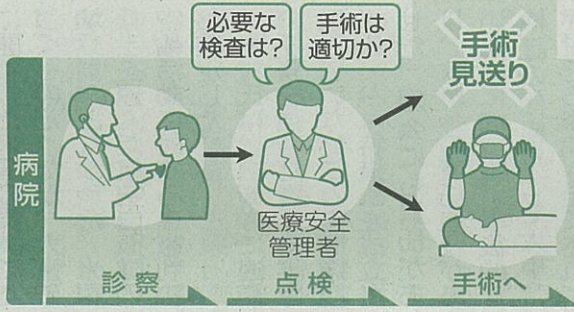
全管理者を養成する。外科医や麻酔医、看護師ら多職種がかかわる手術の症例別リスクもデータ化して蓄積。ミスやトラブルが起きやすいプロセスを把握した上で、手術して問題が起きた場合でも、すぐに報告できるようにする。プログラムでは実際に医師らがトヨタの工場で品質管理の研修を行い、トヨタの品質管理担当者も名古屋大病院で医療現場で発生した課題について解決策を探る。十月からプログラムを始める予定で、九月二十七

日にキックオフシンポジウムが同大で開かれる。医療事故をめぐっては、千葉県がんセンター（千葉市）や群馬大病院（前橋市）で、腹腔鏡を使った手術を受けた患者が相次ぎ死亡するなど手術方法の不透明な判断過程や、患者家族への説明不足が指摘されている。

プログラム実行委員長の安田あゆ子、名古屋大病院医療の質・安全管理部副部長（西）は「医療現場にも、適切でないことが起きたときに、原因を明らかに

できる仕組みが必要ではないかと考えた」と連携の理由を説明する。トヨタ自動車の担当者は「品質管理を全員参加で徹底的に行い、顧客の満足を得られるものづくりに取り組んできた。医療現場でも、生産現場での原因究明と再発防止の考え方や解析手法を適用し、少しでも役立ちたい」と話している。

トヨタ生産方式の医療現場への応用イメージ



人育てる理念期待
都立広尾病院で一九九九年に誤薬投与で妻を亡くした「患者の視点で医療安全

を考える連絡協議会」代表の永井裕之さん 自分が勤務していたパナソニックは、松下幸之助さんの「物を作る前に人を育てる」という理念を大切にしてきた。医療現場でも専門力と人間性の両面から指導し、人材が育成されることを期待したい。

データ管理に意義
日本品質管理学会主催でひたひたなか総合病院の永井庸次院長の話 医療界は産業界と異なり品質保証部が存在せず、過誤に対して非常に弱い。医療の高度化で危険度が増す一方、安全管理

理技術の向上・教育が置き去りにされてきた。リスク管理に加え最も重要なのがデータ管理。院内のデータを構造化して管理できて初めて、本来の意味の安全と質の管理ができることから、新たなプログラムは期待できる。

トヨタ生産方式 生産工程で無駄を徹底的に省き、必要なものだけを停滞なく生産する「カンバン」方式と、工程で異常が発生した際、機械を直ちに止め不良品を造らない「カイゼン」方式という二つの考え方が大きな柱。各工場では、生産工程で異常が発生した場合、機械は自動的に止まり、工場内に設置された異常表示板システムにより、どこで異常が発生したか、一目で分かるようになっている。そこで何が原因か、現場が中心となり解決策を図っていくのが特徴。